

〔 火 災 報 知 機 〕

ISSN 0910-4895

NO. 220

JUN | 2020

THE FIRE ALARM SYSTEMS

〈新製品紹介〉最近の消防防災システム紹介シリーズ 76

シンプルでわかりやすい“Serioシリーズ”

ニッタン株式会社 P型2級複合受信機 2PM0

巻頭言／「たくさん勝つには、たくさん負けるべし」

矢口 孝仁

令和元年度 住宅用火災警報器の検定申請個数の推移

令和元年度 住宅用火災警報器相談室から

一般社団法人日本火災報知機工業会 功労者表彰について

一般社団法人全国消防機器協会 会長表彰について

伊藤龍典様が黄綬褒章を受章されました

住宅用火災警報器 交換診断シート及び設置・交換ガイドブックの紹介

ホームページリニューアルの紹介

工業会だより

役員名簿／編集委員／編集後記



一般社団法人 日本火災報知機工業会

Japan Fire Alarms Manufacturers' Association

THE FIRE ALARM SYSTEMS

2020年 6月号 No.220

目次

火災報知機

- 1 巻頭言／「たくさん勝つには、たくさん負けるべし」
矢口 孝仁
- 3 特集／最近の消防防災システム紹介シリーズ 76
〈新製品紹介〉
シンプルでわかりやすい“Serioシリーズ”
P型2級複合受信機 2PM0
ニッタン株式会社
- 7 令和元年度 住宅用火災警報器の検定申請個数の推移
- 8 令和元年度 住宅用火災警報器相談室から
- 9 一般社団法人日本火災報知機工業会
功労者表彰について
- 10 一般社団法人全国消防機器協会
会長表彰について
- 11 伊藤龍典様が黄綬褒章を受章されました
- 12 住宅用火災警報器
交換診断シート及び設置・交換ガイドブックの紹介
- 14 ホームページリニューアルの紹介
- 15 工業会だより
- 25 役員名簿／編集委員／編集後記





たくさん勝つには、 たくさん負けるべし

日信防災株式会社

代表取締役 矢口 孝仁

機関誌「火災報知機」の巻頭言執筆依頼を受けましたので、会員の皆様にご挨拶申し上げます。
2019年7月に一般社団法人 日本火災報知機工業会の理事に就任いたしました日信防災（株）の代表取締役 矢口孝仁でございます。

私は1972年能美防災（株）へ入社し（沖縄の日本返還の年）施工部門配属後、営業部門を歩んでまいりました。当工業会への関わりはこれまでありませんでしたが、これからは理事の役割を微力ながら一生懸命務めさせていただきます。会員の皆様どうぞよろしくお願いたします。

火報工の思い出は、入社したての頃、P-2級は着工届を工業会（田中ビル）で審査を受け管轄の消防署へ提出するルールだったので、時々足を運んだことを記憶しております。

あれから47年・・・（綾小路きみまろ氏の言葉をかりれば）、建物規模も大規模化、設備も複雑化（R型）してきております。技術の進化もあり早期発見の精度は益々向上して、社会貢献に寄与してきていると存じます。これまでの工業会の歴史の中で、先人諸先輩方々のご努力の積み重ねがあったのことに感謝と、敬意を表します。

さて、理事就任後、火報工の親睦ゴルフに参加し皆さん熱心にやられている姿を拝見し感心しました。小生、ゴルフを始めたのは入社1年後で、先輩の家に遊びに伺い隣の練習場で先輩のクラブで打ったのが初めてでした。最初は止まっているボールなので簡単に当たると思っていたのですが、なかなかまっすぐ前に行かず納得いきませんでした。

それから道具を購入（ボーナス大半）地元の練習場に毎週通いまして、1年後コースへデビューしハーフ58で120まで叩かず終了。練習しているところは多少の上達は見えましたが、月1ペースの今日この頃は、芝生の上を歩かずカートに乗り、春は鶯の声を聴き、新緑の木々の香りを感じ、秋は紅葉と自然の四季を味わい、同伴者とグリーン放談を楽しみ昼食のビールで喉を潤すことがなにより幸せを感じるゴルフとなりました。

6年ほど前、週刊東洋経済の掲載でたくさん勝つには、たくさん負けるべしとのコラムを読み、プロゴルファー宮里優作11年目にして初優勝。彼はプロ仲間からも「いつ勝ってもおかしくない」「最高のスイングの持ち主」と言われ続けていた。彼は、「いいショットを打てば勝てるのか、いいスイングをしたら勝てるという方向に走りすぎた。トレーニングもいろんなことをしすぎて、自分をコントロールできない。何がしたいかわからなくなった時もあった。そこを一度リセットすることが難しかったです。」とコメントされている。課題としていることのハードルを上げすぎたのも良くなかった。小さいハードルをつねに超しとけばよかったのに、わざわざ自分で上げすぎた。目標はホントに近め、近めに設定してそれをクリアして「よしできた！」という

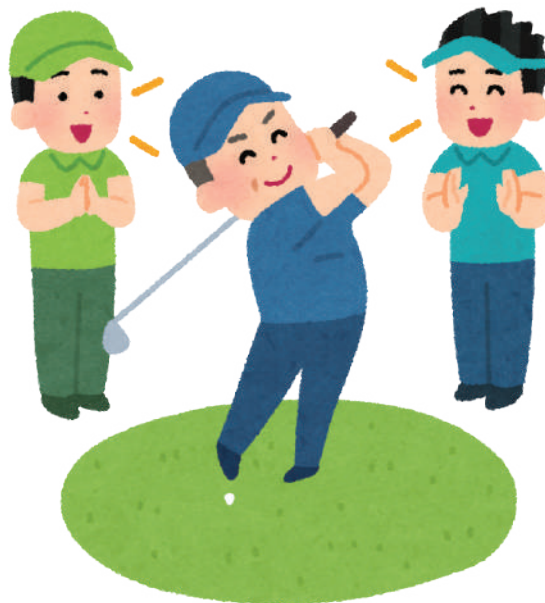
のが自信につながる。本人の近況が掲載されていた。和歌に例え「思ふなよ 浮世の中を出て果てて 宿る奥にも宿はありけり」新古今和歌集の中の慈円という僧侶がうたったもので、浮世を出てしまったと思っても、そこが終わりの宿だと思うな。まだ奥には奥があると思わなければならないという意味合い。

仏教の法華経でも、けじょうゆほん「仮城喩品」というのがあって、途方もない悟りの道を歩むのは大変だから、まず大きな目標達成のための方で、仮の城を作り上げて気力を取り戻させるということだそうだ。「たくさん勝つには、たくさん負けないといけない」ということを学んだ例である。一般アマチュアにも通じることで、実生活や仕事でも同じと思う。

また、宮里優作プロはラウンド前に目標を立てることも大切だ「今日はこれをするんだ」と言う。これが決まっていれば迷走しなくていいでしょう！何をしようか明確じゃないままスタートすると、漫然として良いスコアにはつながらないと言っている。一般アマチュアは試合でないのでもそこまで決めることはないと思えるが、取りあえず素振りして、ボールを打ってラウンドしてもスコアは良くなると理解したほうが良いと考えられる。楽しいラウンドが優先ならそれもよし。皆さんはどちらを選びプレーしたいですか？

最後にラウンドの後の楽しみ方で（アルコールのダメな方はすみません）日本酒の楽しみ方は如何でしょうか！日本人は神事の酒、祝い酒、花見酒、月見酒、雪見酒、季節やことあるごとに飲む機会を作ってきた。一人でじっくり飲む酒、気の合った仲間と楽しく飲む酒、冷やしたり、温めたり温度を変えて楽しむことができ、他にないバリエーションに富んだ酒である。もう1つ、やけ酒もありますが、ゴルフの後は遠慮しましょう。

最後に令和の時代、当工業会の更なる発展と会員皆様のご多幸を祈願し、ご挨拶といたします。



シンプルでわかりやすい“Serioシリーズ” P型2級複合受信機 2PM0

ニッタン株式会社

1. 概要

シンプルでわかりやすい表示・操作性を追求した、火報5回線・防排煙5回線のP型2級複合受信機「2PM0」をご紹介します。

Serio® シリーズ



2PM0 - 5Y5

2. 仕様

- ・ 検定型式番号：受第2019～3号
- ・ 回線数：火報5回線・防排煙5回線
- ・ 主電源：AC100V
- ・ 予備電源：密閉型ニッケル・カドミウム蓄電池
1.65Ah
- ・ 表示：地区表示窓および情報表示画面
- ・ 終端器：CRE、10KΩ、20KΩ
- ・ 主音響装置：音声警報

3. 特長

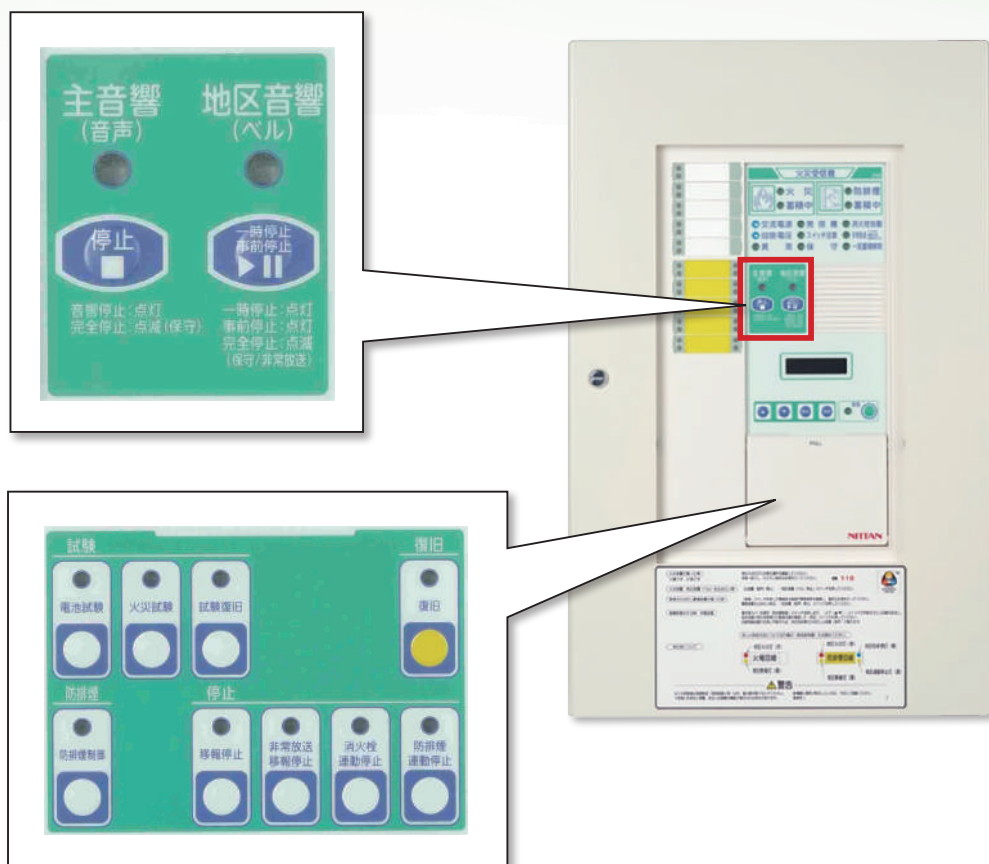
1) わかりやすく、使いやすいスイッチ

- ・ 視認性の高い大きなスイッチ

緊急時に使用するスイッチを“大きく”かつ“わかりやすく”しました。また、「主音響停止」と「地区音響（ベル）一時停止」の“2つのスイッチ”のみとしました。

- ・ 使いやすいスイッチ

保守に用いる移報停止スイッチや試験スイッチなどはカバー内に配置しました。



カバー内

2) デザインの刷新

- ・ カラーユニバーサルデザイン認証取得
すべての人にわかりやすく、見やすい表示を実現しました。



3) 音声警報

- ・ 音声警報

火災や異常を受信すると、警報音と音声警報でわかりやすくお知らせします。また、火災時の音響には聞き取りやすいスイープ音※を採用しています。

例「ビュービュービュー 火事です。火事です。現場状況を確認してください。」

「ブー— ヒューズが切れています。」

※スイープ音とは、連続的に周波数が変化する音のことで騒音下でも聞き取りやすい性質を持っています。

4) 地区灯

- ・地区表示窓部の地区灯（火報回線）

地区火災灯と地区断線灯を分けたことにより、一目で火災か断線状態かを確認することができます。



地区表示窓（火報回線）

番号	名称	役割	点灯パターン	色
①	地区火災灯	火災発報	点灯	赤
②	地区断線灯	感知器線断線	点滅（低速）	黄

- ・地区表示窓部の地区灯（防排煙回線）

地区連動停止灯を設けたことにより、一目でどの回線が連動停止状態かを確認することができます。



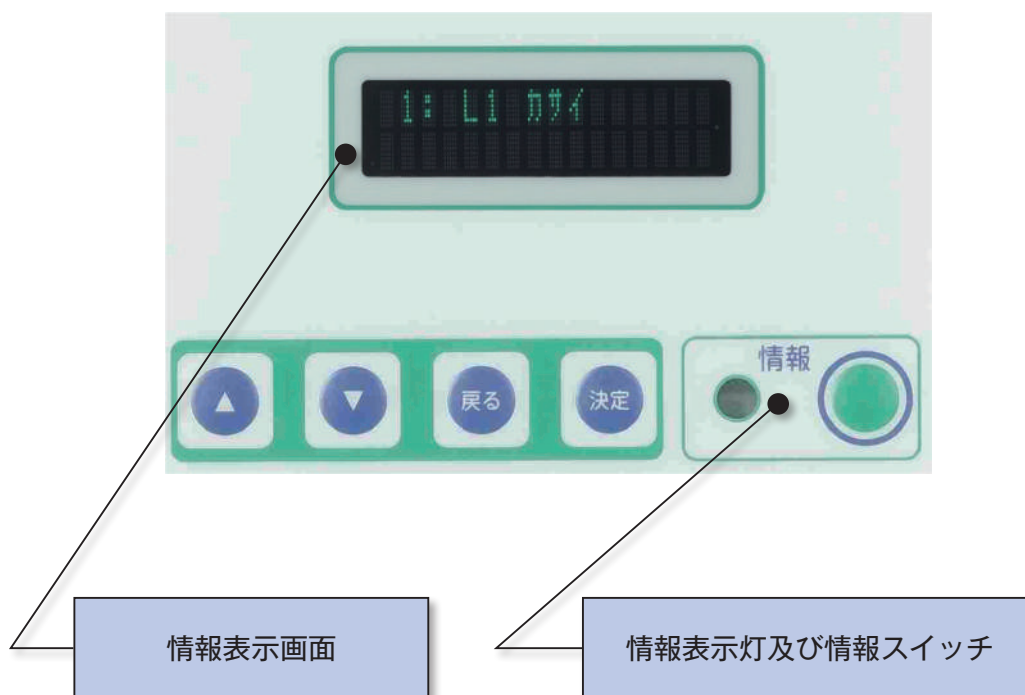
地区表示窓（防排煙回線）

番号	名称	役割	点灯パターン	色
③	地区火災灯	防排煙火災発報	点灯	赤
④	地区断線灯	防排煙感知器線断線	点滅（低速）	黄
⑤	地区防排煙灯	防排煙端末制御	点滅（中速）	青
		防排煙端末応答	点灯	
⑥	地区連動停止灯	防排煙連動停止	点滅（低速）	黄

5) 情報表示画面と機能

・情報スイッチ機能

情報表示灯が点滅した際、情報スイッチを押すことで情報表示画面に火災が発生した回線やシステム障害の内容が表示され、状況を確認することができます。



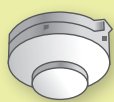
6) 施工支援機能

・加煙・加熱試験時に地区ベルの鳴動回数により火災回線を知らせることができます。

4. 終わりに

ご紹介したP型2級複合受信機2PM0は、管理者が少ない小規模建物において、わかりやすく状況を把握し、対応することができる受信機です。

これからもニッタンは、施工支援、保守点検支援を強化し、お客様のご要望にお応えできるよう、安全・安心のための製品開発に邁進して参ります。



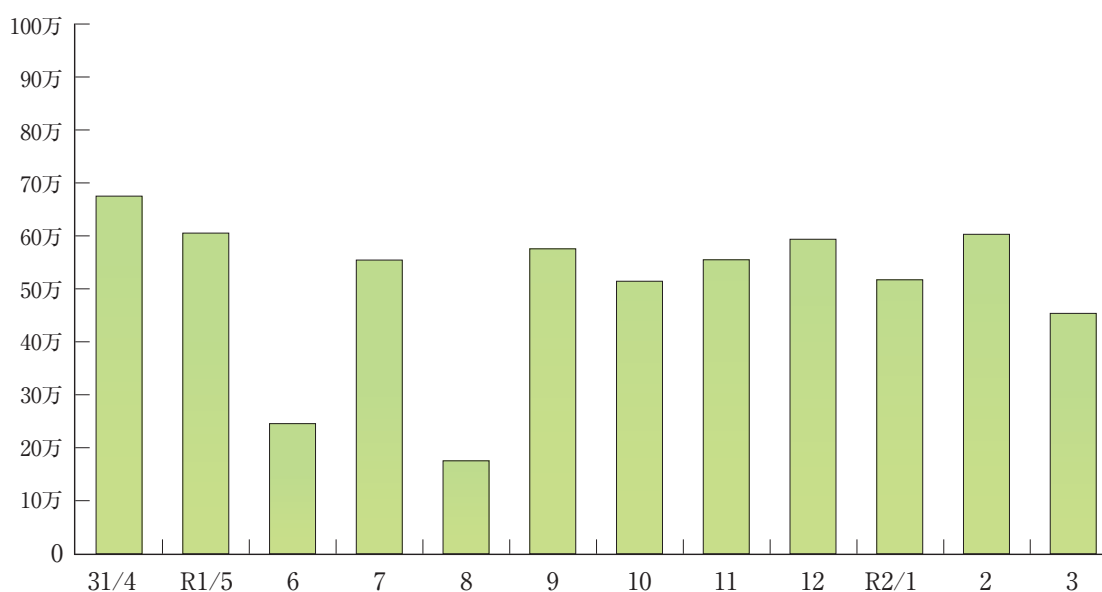
令和元年度

住宅用火災警報器の検定申請個数の推移

年	月	【検定】定温式住宅用火災報知器	【検定】光電式住宅用火災報知器	月別計
平成31年	4月	106,010	579,955	685,965
令和元年	5月	53,600	548,285	601,885
	6月	63,220	194,670	257,890
	7月	142,992	408,565	551,557
	8月	76,000	102,060	178,060
	9月	127,608	454,800	582,408
	10月	67,240	447,020	514,260
	11月	85,538	474,080	559,618
令和2年	12月	99,189	499,000	598,189
	1月	87,829	427,225	515,054
	2月	108,718	492,025	600,743
令和2年	3月	90,634	369,010	459,644
	令和元年度計	1,108,578	4,996,695	6,105,273

(注)本統計は、日本消防検定協会「協会だより」から集計したものである。

令和元年度月別計



住宅用火災警報器相談室から

令和元年度の住宅用火災警報器相談室（相談室フリーダイヤル0120-565-911）の相談件数等の受付状況を報告します。

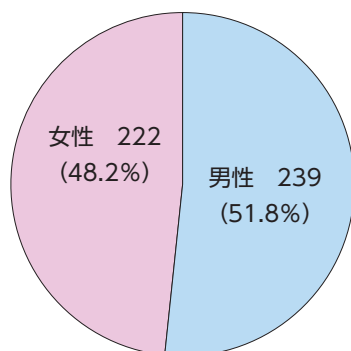
令和元年度の総受付件数は461件となり、前年度の610件から比べると、149件減で約75.6%となっております。

各種の啓発広報活動が功を奏し、一般の方々も住警器の知識が向上してきた為と思われます。相談内容をみますと、今年度も前年度と同じ「設置場所」関係が1位を占めています。

住宅用火災警報器相談室の受付状況（平成31年4月～令和2年3月）

令和元年度の受付件数 461件

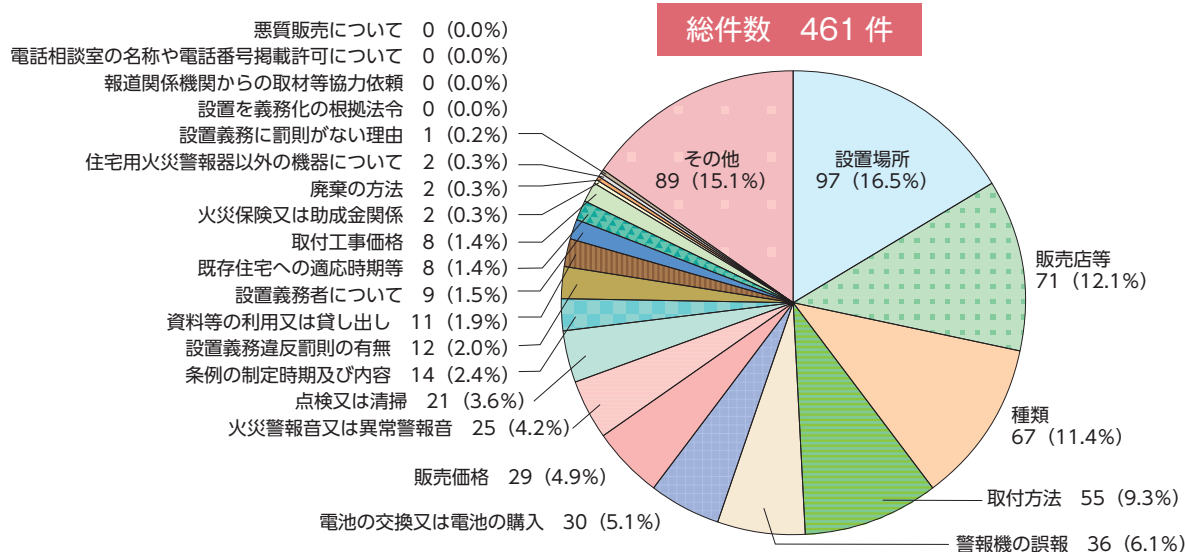
1. 相談者の性別



2. 相談者の地域帯

地域	令和元年度	地域	令和元年度	地域	令和元年度
東京都	37	福島県	4	青森県	1
千葉県	28	新潟県	4	岩手県	1
大阪府	19	長野県	4	山形県	1
埼玉県	18	三重県	4	富山県	1
神奈川県	18	京都府	4	石川県	1
愛知県	16	和歌山県	4	滋賀県	1
岡山県	14	島根県	4	鳥取県	1
兵庫県	10	山口県	4	香川県	1
福岡県	9	熊本県	4	長崎県	1
茨城県	8	栃木県	3	秋田県	0
広島県	7	高知県	3	福井県	0
北海道	6	沖縄県	3	山梨県	0
宮城県	6	群馬県	2	徳島県	0
奈良県	6	岐阜県	2	佐賀県	0
鹿児島県	6	愛媛県	2	宮崎県	0
静岡県	5	大分県	2	携帯	186
				計	461

3. 相談内容（1回の相談で複数の相談があった場合、重複して計算してあります。）



4. 消防機関等からの問い合わせ件数 10件

5. 聴覚障がい者に関する問い合わせ件数 0件

令和2年度



一般社団法人 日本火災報知機工業会 功労者表彰について

表彰された22名は、一般社団法人日本火災報知機工業会表彰規程に基づき、会員等として10年以上勤務され、かつ、消防防災設備の開発普及等に努められ、工業会の目的達成のため、更には、企業の発展に貢献され、特に功労を認められた方々です。受賞おめでとうございます。

なお、令和2年度の表彰式及び懇親会は新型コロナウイルス感染拡大の影響に鑑み、参加者及び関係者の皆さまの安全面を最優先し、誠に残念ながら開催中止としました。

令和元年度功労者表彰受賞者名簿

五十音順

氏名	会社名	所属・役職
池田 信也	能美防災株式会社	取締役 火報設備本部長兼安全衛生推進室・首都圏東地区担当
猪瀬 淳	日本ドライケミカル株式会社	品質保証室 室長
大館 一樹	文化シャッター株式会社	商品開発部 開発三部 次長
大塚 啓成	三和シャッター工業株式会社	開発部門 電装開発部 開閉機課 課長代理
奥山 善行	パナソニック株式会社 ライフソリューションズ社	エネルギーシステム事業部 システム機器ビジネスユニット 品質保証部
金光 秀治	新コスモス電機株式会社	リビング営業本部 西日本営業部長
鎌田 秀人	ニッタン株式会社	保守事業部長
小西 功次	河村電器産業株式会社	研究開発部 研究チーム・技師長
竹内 秀夫	能美防災株式会社	横浜支社長
田中 栄一	ホーチキ株式会社	執行役員 営業本部副本部長（兼）関西支店長
中条 一美	総合警備保障株式会社	セキュリティサービス第一部 常駐警備運用室 常駐指導課 2級事務職
長瀧 将和	セコム株式会社	技術開発本部 品質保証G チーフエンジニア
中村 巨司	光商工株式会社	茨城工場 技術部 担当課長
名城 雅美	日信防災株式会社	防災システム本部 機器販課長
濱井 保徳	テンパール工業株式会社	技術本部 開発部長
平井 裕次	ホーチキ株式会社	監査役
松井 孝之	アイホン株式会社	商品開発部 第一開発課 主事
丸山 功一	パナソニック株式会社 ライフソリューションズ社	マーケティング本部 空間ソリューション事業推進室 マーケティング推進部 部長
村田 順一	ニッタン株式会社	執行役員 技術管理部長
村山 朝之	日本フェンオール株式会社	SSP 営業統括部 メンテナンス営業部
横山 秀雄	藤倉電気工業株式会社	営業推進室 室長
渡邊 啓士	ヤマトプロテック株式会社	エンジニアリング部 名古屋支社 工事課 課長

令和2年度



一般社団法人 全国消防機器協会 会長表彰について

一般社団法人全国消防機器協会会長表彰規程に基づきまして、企業、正会員団体の役職員等として、10年以上勤続され、消防機器等に関する発明、考察又は技術の向上若しくは普及に貢献されるとともに、企業の近代化又は経営の合理化に努められ、協会又は正会員団体の業務の推進又は拡充に努められ、その功績が顕著であり、他の模範となる方々です。永年のご精進とご貢献に心から敬意を表するものです。

当工業会からは、次の8名の方々が表彰されました。おめでとうございます。

なお、令和2年度の表彰式、表彰祝賀会等は、「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」等を踏まえ、開催を見送られました。

(一社) 全国消防機器協会会長表彰受賞者 (火報) (五十音順)

大久保 勝	パナソニック株式会社	ライフソリューションズ社 エナジーシステム事業部 P Sマーケティングセンター パワー・システム部 防災システム企画課 課長
大塚 秀範	ニッタン株式会社	上席執行役員 西日本地区担当 兼 営業推進本部西日本営業推進部担当
坂口 直人	能美防災株式会社	取締役 消火設備本部長 兼 総務部担当
諏訪本 篤	ホーチキ株式会社	執行役員 社長室長 兼 渉外室長
高橋 一徳	セコム株式会社	技術開発本部 品質保証グループ ゼネラルマネージャー
高橋 滋芳	藤倉電気工業株式会社	施工保守部 次長
長井 尚之	新コスモス電機株式会社	技術開発本部 第一開発部 部長代理
蛭田 拓宏	日本ドライケミカル株式会社	営業本部 メンテナンス東京支店長

伊藤龍典様が黄綬褒章を受章されました

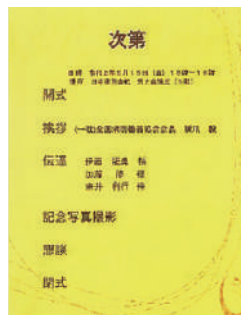
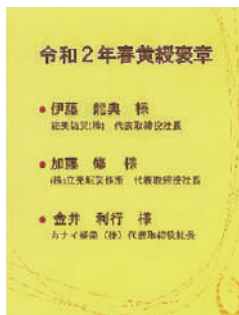
令和2年春の褒章（黄綬褒章）が伊藤龍典 能美防災（株）代表取締役社長（一般社団法人日本火災報知機工業会副会長）に授与されました。受章おめでとうございます。

同年春の褒章(消防関係)を受章された方は全員で107名、その内、黄綬褒章を受章された方は5名で、さらに一般社団法人全国消防機器協会の傘下の団体からは3名の方が受章されました。

黄綬褒章は、商業、工業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する方で、特に消防業界の発展、当工業会の円滑な業務の推進等のために多大な貢献をされた方が対象となります。

なお、褒章伝達式及び拝謁は新型コロナウイルス感染症拡大の防止を理由に、大変残念ながら中止となりました。

そこで、同協会の橋爪毅会長のはからいにより、5月15日に感染拡大防止対策を踏まえつつ、日本消防会館の広めの会議室に受章者及び関係団体の方にお集まりいただき、橋爪毅会長から挨拶が述べられた後、受章者3名（内1名は代理出席）にそれぞれ章記の授与が行われました。



章記の授与



伊藤龍典 様



住宅用火災警報器の新しいパンフレット紹介

住宅用火災警報器 交換診断シート

(一社)日本火災報知機工業会では、住宅用火災警報器の設置維持及び交換促進の必要性を広く啓発するため、毎年広報を展開しています。住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなる恐れがあるため、設置から10年を目安に交換をおすすめしています。この住宅用火災警報器 交換診断シートは、居住者の方に、設置済みの住宅用火災警報器の点検を実施していただき、その結果を判定できるようにしています。このため、居住者の方が設置済みの住宅用火災警報器の状態を把握することが可能となり、交換の必要性等が判断可能となります。今後の住宅用火災警報器の適正な維持管理を行うための一助としてご活用ください。

A4判（1枚）です。「住宅用火災警報器 設置・交換ガイドブック」と併せてご活用ください。

(一社)日本火災報知機工業会のホームページに掲載しています



URL

<https://www.kaho.or.jp/pages/keiho/page-keiho-07-01.html#poster>

住宅用火災警報器 交換診断シート

この診断シートは検査を簡単に行える住宅用火災警報器の交換目安チェックシートです。設置から10年以上が経過した住宅用火災警報器は、交換の検討をおすすめします。

古くなると、電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなることもあるんだ。とても危険だよ！ お宅は大丈夫？

お宅でも交換の検討をしよう！

家庭用品の標準的な使用期限は、一般的に7年か10年といわれています。住宅用火災警報器も同様です。電子部品の劣化や電池切れなどで、火災を感知しなくなることもあり、とっても危険です。

ご自宅の住宅用火災警報器を点検・確認してみましょう。

- 1. 点検する**
警報器のボタンを押す。またはひもを引いて音を確認する。
[ボタンを押す] [ひもを引く]
- 2. 確認する**
設置年月記入場所。設置年月を確認する。
2006年1月設置 製造年月2007/10

点検の場合
「ピピピピ」 「ピーピー」 「ピーピー」など
音により異なります。
音の聞こえ方により、交換の目安が異なります。

交換の場合
「ピピピピ」 「ピピピピ」
電報の音が続くが、本体にしっかりと音が振動していない音が聞こえない場合があります。

ウェブでメーカーが確認できます。
QRコードで確認してください。

裏面で住宅用火災警報器の交換診断をしてください。
公益財団法人 日本火災報知機工業会

(オモテ)

3. 診断する

住宅用火災警報器 診断書の書き方(記入例) 下の記入例を参考に、ご自宅の警報器をすべてチェックしてください。

警報器の種類	設置場所	設置年月	設置状況	点検結果
煙感知型	1階	2015.10	正常	正常
熱感知型	2階	2018.05	異常	異常
複合型	1階	2010.03	正常	正常
複合型	2階	2012.08	異常	異常
複合型	3階	2016.12	正常	正常
複合型	4階	2019.01	異常	異常
その他				

住宅用火災警報器 診断書

診断項目	警報器が「ボタンを押す」または「ひもを引く」		警報器が「設置年月」や「製造年月」を確認する		診断結果		
	正常	異常	正常	異常	正常	異常	不明
警報器の種類	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設置場所	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設置年月	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設置状況	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

診断結果に対するアドバイス

今は正常 今は正常です。しかし、設置場所や設置状況の確認とともに定期的に点検してください。定期点検が実施されていない場合は、10年を目安に交換の検討をおすすめします。

交換を推奨 設置年数が10年を超えたと設置場所や設置状況の確認とともに定期的に点検してください。火災を感知できない10日程度経つと不具合のためにも、早めの交換の検討をおすすめします。

すぐに交換! 電報が交換しても、その機能は低下している場合があります。すぐに新しい警報器に交換してください。古い警報器を廃棄する場合は、消防庁の指導に基づいてください!

(ウラ)



住宅用火災警報器の新しいパンフレット紹介 住宅用火災警報器 設置・交換ガイドブック

住宅用火災警報器は平成16年の消防法改正により設置が義務付けられ、全国の設置率は約80%となっています。住宅用火災警報器の普及が住宅火災の抑制に効果を発揮してきている一方、設置から10年以上が経過している住宅用火災警報器については、電池切れや本体内部の電子部品劣化により性能を十分に発揮できなくなっている可能性があります。

本ガイドブックは、住宅用火災警報器の設置・維持・管理を手助けするとともに、設置から10年以上経過した住宅用火災警報器の交換を促進することで、万が一火災が発生したときに住宅用火災警報器が確実に火災を警報し、火災による被害を最小限にすることを目的としたものです。

住宅用火災警報器の適正な維持管理を推進するためにご活用ください。(ガイドブック「はじめに」より抜粋)

A5判44ページの冊子です。「住宅用火災警報器交換診断シート」と併せてご活用ください。

(一社) 日本火災報知機工業会のホームページに掲載しています



URL

<https://www.kaho.or.jp/pages/keiho/page-keiho-07-01.html#poster>





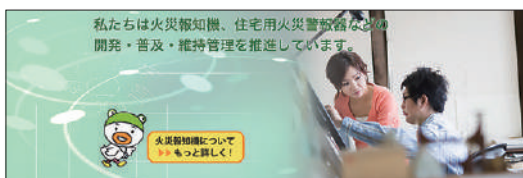
ホームページをリニューアルしました

当工業会のホームページを4月にリニューアルしました。リニューアルのポイントは、基調をグリーンとした信頼と親しみのあるデザインの採用、効果的な広報活動に繋がるユーザビリティを配慮した表紙デザイン、モバイルへの対応、操作性向上の工夫などがあげられます。

新しくなったホームページを是非ご活用ください。

特徴 1

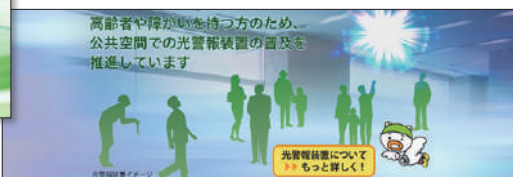
信頼と親しみのあるデザインを採用
スライドショーでコンセプトを丁寧にアピールします。



一般ユーザーの方々向けメッセージ



関係者の方々向けメッセージ



スペシャルコンテンツ、重要なお知らせ、緊急の周知事項などをアピール

特徴 2

PC、タブレット、スマートフォンの各画面サイズに応じてシームレスに切替表示します。(ユーザーの視点)

◇ PC画面：

960～1280ピクセルを想定



◇ タブレット画面：

480～960ピクセルを想定



◇ スマートフォン画面：

320～480ピクセルを想定





工業会だより

(No.220)

当工業会では新型コロナウイルス感染防止対策のため、各委員会は2月よりメールによる会議に移行し始めました。また、国内での感染確認当初から会員及び事務局職員の手洗い、うがい、消毒、マスク着用、部屋の換気の徹底や事務所への来訪者の入室制限、そして在宅テレワークの取組など感染予防対策の強化を図っております。



総会

令和2年5月28日

[令和2年度定時総会（書面開催）]

〈議事〉

令和元年度事業報告書及び収支計算書（案）について

〈報告事項〉

令和2年度事業計画書及び収支予算書について

理事会

令和元年12月28日（書面開催）

〈審議事項〉

- (1)理事の補欠選任（案）
- (2)当該補欠選任（案）を総会に諮る方法（案）

令和2年1月15日

〈報告事項〉

- (1)令和元年11月度理事会の議事録について
- (2)書面による理事会及び総会の結果について
- (3)令和元年10月会計報告について
- (4)令和2年度工業会功労者表彰(案)について
- (5)住宅用火災警報器・交換ガイドブックについて
- (6)火報工ホームページ（リニューアル）の進捗状況について
- (7)NTT固定電話のIP網移行に伴い発生する事象への対応について

(8)事務局長会議議事概要について（第9回）

(9)感知器・受信機・住警器等の検定申請個数及び受託評価依頼状況

(10)住警器相談室の相談受付状況

〈資料〉

- (1)役員名簿
- (2)理事会等の日程（予定）
- (3)消防庁等幹部一覧

令和2年3月25日（書面開催）

〈審議事項〉

- (1)令和2年度事業計画書及び収支予算書（案）について
- (2)令和2年度功労者表彰候補者（案）について

〈報告事項〉

- (1)令和2年1月度理事会の議事録について
- (2)令和2年2月会計報告について
- (3)新型コロナウイルスの感染拡大に伴う当工業会の対応について
- (4)住宅用火災警報器交換促進に係る関係機関との連携・協力について
- (5)住宅防火対策推進懇談会概要報告について
- (6)令和元年度住宅防火防災シンポジウムの事業完了報告について
- (7)事務局長会議及び消防機器等製品情報センター運営会議の議事概要について
- (8)感知器・受信機・住警器等の検定申請個数及び受託評価依頼状況
- (9)住警器相談室の相談受付状況

令和2年5月13日（書面開催）

〈審議事項〉

令和元年度事業報告書及び収支計算書(案)について

〈報告事項〉

- (1)令和2年3月度理事会の議事録について
- (2)令和2年4月会計報告について
- (3)令和2年度定時総会の書面による開催について
- (4)新型コロナウイルスの感染拡大に伴うこれまでの対応状況及び今後の対応方針(暫定)について
- (5)感知器・受信機・住警器等の検定申請個数及び受託評価依頼状況
- (6)住警器相談室の相談受付状況

理事会トピックス

会議のペーパーレス化実施

法律改正など行政によるペーパーレス化が推進される中、当工業会も11月の理事会より会議資料のペーパーレス化を実施しました。ペーパーレスにより紙代、印刷代のコスト削減、管理がしやすい、地球環境に優しいなどのメリットが生まれます。今後も当工業会では文書の電子化に積極的に取り組みます。



業務委員会

1. 総会・理事会の報告について

- ・令和元年11月度理事会概要報告
- ・令和元年度書面による第2回理事会及び令和元年度書面による第2回総会の概要報告
- ・令和元年1月度理事会概要報告
- ・令和2年3月度書面による定例理事会報告

2. 住宅用火災警報器関連の報告

- ・住警器相談窓口の受付件数
- ・感知器・受信機等の検定申請個数及び住警器等の受託評価・検定依頼個数の推移他
- ・消防防災用設備等認定及び評定合格数

3. 全国消防機器協会関連会議報告

- ・消防機器等製品情報センター運営会議議事概要について
- ・事務局長会議議事概要について

4. 令和元年度地区別業務懇談会報告について

令和元年度中部・関西地区の各消防局との業務懇談会を各委員会及び関西支部・中部支部と連携し下記の通り実施した。

- ・令和元年8月22日名古屋市消防局
本部出席者 雨宮技術委員長、諏訪本業務委員長
- ・令和元年10月3日堺市消防局
本部出席者 石中設備委員長
- ・令和元年10月18日大阪市消防局
本部出席者 上田システム企画委員長、市川技術部長
- ・令和元年10月28日京都市消防局
本部出席者 成宮メンテナンス委員長、佐島技術部担当部長
- ・平成30年11月12日神戸市消防局
本部出席者 山本住宅防火推進委員長、鈴木事務局長

本懇談会は消防局と火報工業会本部と支部が参加して、防災設備や住警器等について有意義な討議が行われた。

5. 令和元年度住宅防火防災推進シンポジウム事業完了報告書について

住宅防火対策の重要性を周知し、住宅用火災警報器をはじめとする住宅用防災機器等の普及及び維持管理の徹底を図るとともに、家庭の地震対策も含めた住宅防火防災対策の積極的な推進を目的として住宅防火防災推進シンポジウム開催経費の一部を負担した。

6. 令和元年度住宅防火対策推進懇談会について

7. 住宅用火災警報器設置対策会議について

8. 台風19号等による被災者を救援するための義援金について

9. 自動火災報知設備受信機劣化診断自主管理委員会からのお知らせ

- ・資格者登録名簿、受講カリキュラムの定期提出に関するお願い

10. 火報工からの連絡等

- ・工業会発刊の資料配布について
- ・マイナンバーカードの積極的な取得と活用呼びかけについて（協力依頼）
- ・2020年度建築電気設備基礎教育研修会のご案内（一社）電気設備学会
- ・2019年度講演討論会への参加のご案内（公社）日本火災学会
- ・令和元年度防火セミナーの開催について（公社）全国公営住宅火災共済機構
- ・令和2年春季全国火災予防運動に対する協力について（依頼）消防庁次長
- ・令和元年度消防用機器等の海外展開セミナーの開催について（消防庁予防課・全国消防機器協会）
- ・令和2年度消防防災科学技術賞の募集について（消防庁消防研究センター）
- ・令和2年「建築設備士」第一次試験受験準備講習会のご案内（一社）電気設備学会
- ・令和2年度国土交通大臣登録「防火設備検

査員講習」開催について（一財）日本建築防災協会

- ・令和2年度危険物安全週間推進標語の決定について（一財）全国危険物安全協会
- ・本社事務所移転のご案内（日本ドライケミカル株式会社）
- ・消防庁人事について
- ・日本消防検定協会人事について
- ・東京消防庁人事について
- ・当工業会ホームページリニューアル
- ・令和2年春の褒章（消防関係）について

<報告> 業務委員長 諏訪本 篤

<委員会開催> 1月9日、2月13日、3月12日、4月9日、5月22日

技術委員会

1. 火報システム技術検討小委員会

- (1)特定小規模用自動火災報知設備の設置基準拡大について

1月に第2回「用途区分・消防用設備等の規制のあり方に係る作業チーム」委員会合が開催された。又、2月には委員会合で出た意見を反映した技術検討資料が配布された。火報システム技術検討小委員会で特定小規模施設用自動火災報知設備の設置範囲拡大に向けた新たなシステム及び製品化の検討を行い、意見交換を行った。

- (2)台風等荒天時における緊急確認出動調査について

3月に東京消防庁の予防課から台風19号の上陸時に緊急確認の出動が増加し、今後同様の現象が起こる可能性があるため調査を行った旨の内容説明があった。

火報システム技術検討小委員会で調査の項目、内容について意見・具申した。

2. 火報試験基準検討小委員会

衝撃電圧試験機で使用している水銀リレーの生産中止に伴い、半導体式リレーを使用した代替機の評価作業を日本消防検定協会と共同で行った。

評価作業は同一の試験条件で7社の試供品（受信機及び感知器）を各社別々に検定協会の担当者と共同で行った。評価結果として各社問題は生じていない。

3. 住警器設置・交換ガイドブック作成ワーキング

住警器設置・交換ガイドブックが完成し、3月末に「住宅用火災警報器 交換診断シート」と合わせ全国の消防本部等に配送された。

又、日本火災報知機工業会のホームページにもPDFファイルを掲載している。

4. 連動機構・装置等自主評定委員会

1月に開催した第90回連動機構・装置等自主評定火報専門委員会にて、型式申請1件、軽補正申請3件、型式更新申請9件の書類審査・承認が行われた。

2月開催の第71回連動機構・装置等自主評定委員会にて第90回の火報専門委員会による審査結果の報告があり了承された。

3月は第91回連動機構・装置等自主評定火報専門委員会をメールによる開催とした。

型式申請1件、軽補正申請6件、型式更新1件の書類審査・承認が行われた。

5. 非常用放送設備専門委員会

電子情報技術産業協会（JEITA）主催による2019年度第3回専門委員会が2月に開催され、日本火災報知機工業会より技術委員長がオブザーバーとして参加した。WG活動報告のほか、非常用放送設備の出荷統計の報告が行われた。

<報告> 技術委員長 雨宮 秀人

<開催> 1月16日、2月20日、3月19日、

4月16日

（3月と4月はメール配信による開催）

システム企画委員会

1. 火報関連システムとの連携調査小委員会 （12月～4月：3回開催）

本年から開始されている緊急通報受理回線の回線保留からコールバックへの移行に伴い、火災通報装置の動作への影響が懸念される件で、主に以下の活動を行った。

1) IP網移行後の疑似環境における火災通報装置へのコールバック試験結果まとめの為の打合せ

・11月20日にNTT武蔵野研究開発センターにて実施した確認試験結果をまとめ、消防庁へメールにて報告した。

2) 消防庁より発出された通知に関する報告と関連事項の検討

・12月23日に火災通報装置に関する消防庁通知「消防予第274号・消防情第138号 他」が発出された。特に、「別紙1-1 1. 背景」の項に今回の事象発生の経緯等が簡潔に記載されている。

①IP網では回線を保留する機能がなくなり、通報者に電話を再度かけ直す（コールバックする）仕組に変更されることとなっていること。

②火災通報装置は元々、回線保留機能を前提としており、仕組が切り替わることにより、ナンバー・ディスプレイ等の契約回線で消防機関からのコールバックを受けられないという事象が発生すること。

・通知発出後は現地調査が進められ、その過程で各社へ問合せ等があることが予測されるが、消防庁通知の記載内容に基づいて対応していくこととした。

・消防庁からの情報で、今年度改修予定の10本部中5本部での調査状況は、火災通報装置約1,000台のうち、専用回線を使用しているものが9割、何らかの対応が必要な装置は6%強、PBダイヤルインも若干数ある、と伺ったことを報告した。

3) NTT「事象を説明するための動画」制

作への協力

- ・2月7日にNTTより連絡があり、NTTが制作した「事象を説明するための動画」をNTT東西のホームページにアップしたとのことであった。アクセス方法は以下の通り。

■NTT東日本

公式HPのトップページ→中段の「EASTギャラリー」→「通信・災害対策」に掲載
<https://www.ntt-east.co.jp/eastgallery/universal/>

■NTT西日本

<https://www.ntt-west.co.jp/info/support/oshirase20191223.html>

また、NTT東西それぞれの公式YouTubeチャンネルにも掲載済みとのこと。

2. 火報企画検討小委員会

(12月～4月：5回開催)

光警報装置の設置啓発映像について小委員会で以下の検討を行った。今後映像の概要を詰め、光警報連携小委員会に諮る予定。

1) 映像制作の目的

光警報装置の設置効果を施主・ゼネコン・設計事務所・消防職員などにアピールすることが目的。各社の営業用にも利用いただくこととする。デモパネルより簡単に扱え、かつ光警報装置が作動した時の状態をご理解いただけるツールにする。

2) 映像のストーリー検討

設備委員会で実施された光警報装置の設置状況アンケート調査の結果に関する分析を行い、設置が多い建物用途や設置場所を把握した。また、動画制作会社のHPなどから予算範囲内で制作可能なPR映像の例を確認し、30～60秒程度の動画をイメージし、ストーリーを検討した。

<報告> システム企画委員長 上田 毅

<開催> 1月24日、2月28日、3月27日、
4月24日

設備委員会

1. 設備性能基準化小委員会活動報告

- (1)「煙・熱感知連動機構・装置等の設置及び維持に関する運用指針」の改訂検討について

本運用指針の「設置に関する部分」を、設備性能基準化小委員会で建基法、設置基準等の解説内容について改訂作業を進めています。

改訂案が纏まり次第、(一社)日本シャッター・ドア協会、日本防排煙工業会と改訂案について意見交換を実施致します。

- (2)消防庁告示「耐火電線の基準」小勢力回路用耐火ケーブル追加改定提案について

消防庁予防課、(一社)日本電線工業会と協議の結果、「電気設備技術基準」に合わせた「小勢力回路用耐火ケーブル」のカテゴリーではなく、「低圧耐火ケーブル」の中に「60V以下」のカテゴリーを追加する方向で進める事になりました。

- (3)建築設備計画基準、設備設計基準(令和3年版)【改定一次案】について

(国土交通省 大臣官房官庁 営繕部設備・環境課監修)

3月3日に国土交通省 大臣官房官庁 営繕部設備・環境課より【改定一次案】の意見照会があり、5月の提出期限に向け小委員会で意見収集を行っています。

- (4)「文化財等における消防用設備等に関する意見交換会」の依頼事項について

- ・文化庁から提示された「国宝・重要文化財(建造物)の感知器選択」についての審議結果を、第3回意見交換会で参考資料として提出説明致しました。

- ・消防庁予防課長通知「文化財関係建造物に対する自動火災報知設備の設置に関する消防法令の運用基準について」(昭和44年10月20日 消防庁予第237号)改定案の内容について委員長より小委員会メンバーへ意見収集を行った結果、要望等はありませんでした。

2. 工事基準書小委員会活動報告

「工事基準書（平成28年版）」の改訂作業について

改訂内容について見直し審議が終了し、印刷業者から納入された修正版を基に確認作業、審議を進めています。

3. 文化財等における消防用設備等に関する意見交換会報告（消防庁からの要請対応）

参加者：消防庁関係者、文化庁関係者、東京理科大学 関澤教授、（一社）日本消火装置工業会関係者、火報工は、技術委員長、設備委員長、設備副委員長

意見交換会の概要は、以下の通りです。

(1)第1回（1月10日）

- ・首里城復元に有効な消防用設備等のあり方
 - ・文化財等における消防用設備等の設置に関する課題対策
 - ・首里城復元に向けた「技術検討委員会」
 - ・「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画等について（通知）」
- 以上の4項目について意見交換を実施致しました。
- ・文化財、神社・寺院・教会、城郭等に設置される感知器種別、設置基準、設置環境条件を纏めた資料を設備委員長が提出致しました。

(2)第2回（2月10日）

- ・首里城復元に向けた「技術検討委員会防災WG」（沖縄総合事務局）第1回
 - ・消防庁予防課長通知「文化財関係建造物に対する自動火災報知設備の設置に関する消防法令の運用基準について」（昭和44年10月20日 消防庁予第237号）改定案
 - ・「国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防火訓練マニュアル」案
- 以上の3項目について意見交換を実施致しました。

(3)第3回（3月2日）

- ・首里城復元に向けた「技術検討委員会防災WG」（沖縄総合事務局）第2回
 - ・消防庁予防課長通知「文化財関係建造物に対する自動火災報知設備の設置に関する消防法令の運用基準について」（昭和44年10月20日 消防庁予第237号）改定修正案
 - ・「国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防火訓練マニュアル」修正案
- 以上の3項目について意見交換を実施致しました。
- ・「国宝・重要文化財（建造物）の感知器選択」について

文化庁から提示された資料について設備性能基準化小委員会で審議した資料を基に設備委員長が参考資料として説明致しました。

4. 東京消防庁第3期「上級予防技術研修（予防課程）警報設備検査実技」対応報告

1月31日に消防学校において実機を使用して研修を実施致しました。

参加人数：36名 講義時間：13時から17時まで 講師：委員長含め3名で対応致しました。

<報告> 設備委員長 石中 良治

<委員会開催> 1月23日、2月・3月・4月は、メールでの資料配布による書面会議

メンテナンス委員会

1. 点検実務検討小委員会報告

1) NTT固定電話のIP網移行について

- ・令和元年12月23日、「NTT固定電話のIP網移行に伴い発生する事象への対応について」の通知が消防庁から発出された。火災通報装置の点検時に、NTTが作成した資料を活用し事象内容を説明するこ

とや、火災通報装置の接続状況について点検票の備考欄に記載すること等の対応協力が通知されており、各会員会社内でも対応していただくようお願いした。

- ・NTTが製作した、IP網化によって生じる火災通報装置の不具合についてのYouTube動画の紹介を行った。

2) 「煙・熱感知連動機構・装置等の設置及び維持に関する運用指針」の改訂について

連動機構3団体協議の報告を含め、点検実務検討小委員会で検討する経緯について説明を行い、「5. 点検基準」の項目について、法律改訂、点検方法、点検票の内容について見直しを行った。

2. 維持運用管理手法小委員会報告

- 1) 非火災報対策マニュアルの改訂について
平成23年に第3版が発刊され、その後8年間見直しが行われておらず、イラストデザインを含めて、全面的に見直しを行う。一般の人には「非火災報」という言葉も馴染がなく、対象ユーザーの想定を含め、わかりやすい内容とする予定である。中小規模物件の関係者をターゲットと想定し、自火報設備のシステム構成やトラブル対応について、わかりやすい構成と内容とする方針である。現在は全体構成の見直しを進めている。
- 2) 防火設備検査員講習用テキストの見直し
日本建築防災協会から防火設備検査員講習テキストの見直し依頼があり、メンテナンス委員会・正副委員長で対応する。

＜委員会開催＞ 1月15日、2月18日、3月17日
＜報告＞ メンテナンス委員長 成宮 淳一

住宅防火推進委員会

1. 住宅防火対策推進協議会の行事について

住宅防火対策の重要性を周知し、住宅用火災警報器、住宅用消火器及び防災品等の普及を図るとともに、住宅における防災対策も含めた住宅防火防災対策の積極的な推進を目的とし、2019年度も住宅防火対策推進協議会から協力依頼がありました。

①磐田市住宅防火推進シンポジウムについて

11月30日(土)にアミューズ豊田・ゆやホールにて磐田市住宅防火推進シンポジウムが開催されました。

工業会からは2名が出席、開会後に基調講演、ダニエル・カール氏の防災がんばっぺ、幼年消防クラブによる踊りが実施され、ロビーに設置した展示コーナーでは住宅用火災警報器を展示、来場者には設置後10年たったら交換と点検の実施を説明、シンポジウム前や休憩時間中に大勢の親子連れ235名が来場しました。

②宇部市住宅防火推進シンポジウムについて

12月20日(金)に宇部市文化会館にて宇部市住宅防火推進シンポジウムが開催されました。

工業会からは2名が出席、開会後に基調講演、トークショー、パネルディスカッションが実施され、ロビーに設置した展示コーナーでは住宅用火災警報器の展示パネルで説明を実施、全体的に熱心に耳を傾けてくださる方が多く、252名が来場しました。

③八千代市消防本部CATV等事業報告について

2月22日(土)に八千代市春の火災予防フェスタが新型コロナウイルス感染防止の影響で中止になり、ケーブルテレビの撮影のみ八千代市消防本部東消防署にて行いました。

④令和元年度住宅防火防災推進シンポジウムの実施報告書について

住宅防火対策推進協議会より令和元年度実施の住宅防火防災推進シンポジウムの報告書が提出されました。

開催日・場所及び参加人数等の報告があり、添付書類として写真やアンケート結果が報告されていました。

2. 住宅用火災警報器交換診断シートについて

居住者の方に設置済みの住宅用火災警報器の点検を実施して頂き、状態を把握することが可能で、その結果を判定できるようにしており、交換の必要性等が判断可能になり、今後、住宅用火災警報器の適正な維持管理を行うための一助としてご活用して頂くために作成しました。

又、工業会のHP上に住宅用火災警報器交換診断シートをダウンロード可能な状態で公開しました。

①一般社団法人全国LPガス協会への協力依頼について

総務省消防庁予防課より、(一社)全国LPガス協会に住宅用火災警報器の維持管理・交換等について協力依頼を実施、この協力依頼に対して、工業会に住宅用火災警報器交換診断シートを配付して頂きたいとの連絡があり、(一社)全国LPガス協会の本部に1,500部(47都道府県に各30部)送付しました。

②報道資料 令和2年春季全国火災予防運動の実施について

2月28日(金)に消防庁HPより令和2年春季全国火災予防運動の実施について報道資料が掲載されました。

工業会が作成した「住宅用火災警報器交換診断シート」が各消防本部に配布予定との記載と住宅用火災警報器の適正な維持管理や交換等を促進するシートとして紹介されました。

③全国各消防本部への資料サンプル配布について

全国消防長会を通じて、全国各消防本部(726本部)に「住宅用火災警報器交換診断シート 100部」及び「住宅用火災警報器設置・交換ガイドブック 30冊」を配布しました。

本件は消防庁から都道府県所管部署宛てに発出する情報提供に記載されました。

3. 令和元年度近畿ブロック市町村女性防火クラブ幹部研修会について

11月21日(木)にピアザ淡海の滋賀県立県民交流センターにて近畿ブロック市町村女性防火クラブ幹部研修会が出席者112名にて開催されました。

工業会からは1名が出席、住宅用火災警報器の機能説明について講演を実施しました。

他の講演として消防庁国民保護・防災部地域防災室 藤ノ木様より、「女性防火クラブと地域防災力の充実強化」について講演され、更に、滋賀県大津市危機・防災対策課 里山様より、「被災地域支援から学んだ事」について講演されました。

4. 第15期東京都住宅防火対策推進協議会について

2月5日(水)にKKRホテル東京にて第15期東京都住宅防火対策推進協議会(第3回)が開催されました。

工業会からは1名が委員として出席、令和元年中の住宅火災による死者の発生状況の報告やモデル消防署での共同購入の試行等について説明・報告があり、様々な質問・ご意見等がありました。

5. 住宅用火災警報器の電話相談受付件数

11月55件、12月36件、1月24件、2月39件、3月38件となり、11月から3月までの件数は193件となりました。

令和元年度の総相談件数は461件と昨年より減少、相談内容の総件数も589件と減少しました。

<委員会開催> 1月22日、2月26日、3月25日、4月22日

<報告> 住宅防火推進委員長 山本 浩史

関西支部

第368回 関西支部定例設備委員会

(令和2年1月16日)

- (1)定例(拡大)設備委員会の会計報告について審議
- (2)啓発宣伝事業「令和2年堺市消防出初式での啓発宣伝活動の協賛結果」について審議
- (3)啓発宣伝事業「住宅用火災警報器の啓発宣伝用リーフレット、グッズ等の作成」について、住警器取替促進啓発用クリアファイルの成果物、配付先など審議
- (4)調査研究事業「4都市消防局との業務懇談会開催記録」について、最終資料、作成数を審議
- (5)講師打合せ懇談会の開催結果について審議
- (6)令和2年度会議等予定表(案)について審議

第436回 関西支部定例役員会

(令和2年1月28日)

- (1)啓発宣伝事業「令和2年堺市消防出初式での啓発宣伝活動」の実施結果について審議
- (2)啓発宣伝事業「住宅用火災警報器の啓発宣伝用リーフレット、グッズ等の作成」について、住警器取替促進啓発用クリアファイルの成果物、配布先など審議
- (3)調査研究事業「4都市消防局との業務懇談会開催記録」について、最終資料、まとめ方、資料作成数を審議
- (4)講師打合せ懇談会の開催結果について審議
- (5)令和2年度関西支部行事日程(案)について審議

第369回 関西支部定例設備委員会

(令和2年2月13日)

- (1)調査研究事業「派遣講師支援用として、消防設備士再講習用教材を作成」について審議
- (2)調査研究事業「4都市消防局との業務懇談会開催記録」について審議

第370回 関西支部定例設備委員会(メール会議)

(令和2年3月13日)

- (1)調査研究事業「消防法令等改正に伴う実態・運用等の調査、研究」について、成果物の作成など審議
- (2)調査研究事業「派遣講師支援用として、消防設備士再講習用教材を作成」について、成果物の作成など審議
- (3)支部所属講師打合せ会の開催について議題など審議
- (4)住警器普及啓発用クリアファイルに係る消防本部アンケート結果について

第437回 関西支部定例役員会(メール会議)

(令和2年3月23日)

- (1)調査研究事業「派遣講師支援用として、消防設備士再講習用教材を作成」について、成果物の作成など審議
- (2)調査研究事業「4都市消防局との業務懇談会開催記録」について、成果物の作成など審議
- (3)調査研究事業「消防法令等改正に伴う実態・運用等の調査、研究」について、成果物の作成など審議
- (4)令和2年度関西支部総会の開催日時、場所等について審議
- (5)支部所属講師打合せ会の開催結果について審議

第371回 関西支部定例設備委員会(メール会議)

(令和2年4月13日)

- (1)令和2年度「調査研究事業」の進め方について審議
- (2)令和2年度「啓発宣伝事業」の進め方について審議
- (3)「年次報告会」の開催日程等について審議
- (4)講師打合せ会の開催結果について審議

中部支部

火報・消装合同役員会（第6回）

（令和2年1月10日）

- (1)令和2年新年互礼会の進行要領について
昨年との相違点（開催場所、内容の変更）
等について
- (2)中部支部技術委員会の進捗状況について
議事録、資料収集状況について
- (3)（一財）愛知県消防設備安全協会への講師
派遣計画について
昨年との相違点、分担表について
- (4)収支計算書等について
元年度執行見込み及び令和2年度予算要望
内容調整
- (5)その他
年度内行事予定、会員異動、幹旋図書等そ
の他

新年互礼会

（令和2年1月10日）

- ・火災報知機工業会・消火装置工業会合同で、
ザグランクレールにおいて、新年互礼会を
開催
名古屋市・愛知県・愛知県消防設備安全協
会の関係部局等の来賓をお迎えし総勢126
人

消防設備士講習（愛知県消防設備安全協会主催） への講師派遣

- ・警報設備 2月19、20日

技術委員会（第5回）

（令和2年2月27日）

- 名古屋市消防局との質疑事項に係る意見交換
（消防局3名）

令和元年度火報・消装合同役員会（第7回）

（令和2年3月16日）※新型コロナの影響で書
面会議

- (1)新年互礼会の結果と今後の対応について
会場、配置、経費、変更結果、反省等及び
来年の会場等
- (2)令和2年度定期総会について（※後日、書
面会議と決定）
- (3)令和元年度事業報告について
形態、内容の変更、決算見込み、監査計画
等
- (4)令和2年度支部事業計画（案）について
元年度との比較、予算、事業等
- (5)令和2年度消防設備講習等の講師派遣につ
いて
中部支部講師派遣計画等
- (6)関係機関の表彰について
該当事業所、人選、事務処理等
- (7)その他
月次報告、会員異動、技術研修会、令和2
年度行事予定等

令和2年度火報・消装合同役員会（第1回）

（令和2年5月12日）※新型コロナの影響で
書面会議

- (1)総会関係（書面会議）における議案について
（議題1、2）
会場、進行概要等
第1号議案 令和元年度事業報告及び収支
計算書について
第2号議案 令和2年度事業計画案及び収
支予算案について
- (2)業務運営懇談会
日程、参加者、議題等
- (3)技術委員会について
委員の推薦、今後の日程、調査内容等
- (4)その他
 - ・合同技術研修会予定
 - ・愛知県消防設備安全協会関連（役員・講
師派遣・表彰対応等）報告

役員名簿

〈令和2年6月1日現在〉

役職名	常勤・非常勤	氏名	所属
理事(会長)	非常勤	金森賢治	ホーチキ(株)代表取締役会長
理事(副会長)	非常勤	伊藤龍典	能美防災(株)代表取締役社長
理事(副会長)	非常勤	板倉秀樹	ニッタン(株)代表取締役社長
理事(専務理事)	常勤	浅川修	一般社団法人日本火災報知機工業会
理事	非常勤	遠山榮一	日本ドライケミカル(株)代表取締役社長
理事	非常勤	田原仁志	日本フェンオール(株)代表取締役社長
理事	非常勤	矢口孝仁	日信防災(株)代表取締役社長
理事	非常勤	谷口尚史	パナソニック(株)ライフソリューションズ社 エナジーシステム事業部 システム機器 BU 長
理事	非常勤	伊藤郁夫	ヤマトプロテック(株)監査役
理事(事務局長)	常勤	鈴木博也	一般社団法人日本火災報知機工業会
監事	非常勤	藤倉大樹	藤倉電気工業(株)代表取締役
監事	非常勤	鈴江昭	中央報知機(株)代表取締役

編集委員

委員長 諏訪本 篤 (ホーチキ株式会社)
 委員 高橋 薫 (能美防災株式会社)
 中沢 崇 (ニッタン株式会社)

委員 青木 良二 (パナソニック株式会社
 ライフソリューションズ社)
 佐野 祥一 (事務局)

編集後記

新型コロナウイルスの感染症対策に当工業会も短期間で様々な対応が求められています。いやおうなしで始めた在宅テレワークも徐々に慣れてきました。完全在宅とまではいかないまでも仕事に支障がないよう毎日頑張っています。経済活動を制限されるコロナもいつかは終息するでしょう。社会が以前の状態に戻っても、こうした経験を無駄にしないようにしたいと思います。

写真は自家製のマスクです。立体感をだすのと、耳にかけるゴム紐の長さに苦労したようです。短くても耳が痛いし、長すぎると下にずり落ちてきましたが数を作っていくうちに段々うまくなってきました。ミシンがあれば簡単に作れるそうです。

今は夏に向け通気性のある素材を探しています。

(佐野)





一般社団法人 **日本火災報知機工業会**
Japan Fire Alarms Manufacturers' Association

発行 一般社団法人 日本火災報知機工業会
〒110-0016
東京都台東区台東 4-17-1 偕楽ビル（新台東）
電話 (3831) 4318 (代)
URL <https://www.kaho.or.jp/>
印刷 株式会社アイネット
令和2年6月15日 印刷 令和2年6月15日 発行